

総合評価

受診施設名	京都市向島南児童館	施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成 26 年 4 月 18 日

総 評	<p>京都市向島南児童館は、平成 22 年の開設から 4 年目を迎えています。理念や基本方針は子どもたちが理解しやすいように「生活のめあて」（なかよく たのしく げんきに）と「生活のやくそく」（あいさつ あんぜん あとかたづけ）に表現され、利用者の大半を占める子どもたちが、児童館での活動を理解できるよう図られています。そして、毎日開催される終わりの会で、館長から「めあて」や「やくそく」を題材とした話があり、子どもの視点に立った運営がされていました。また、「子どもに対しては、時には厳しく、時には優しく、愛情をもって接する」という方針のもと、子どもたちが達成感を味わえる『けん玉や百人一首』、創意工夫の出来る『クラフトやクッキング』など、子どもたちが自発的に創造力を発揮できるよう活動メニューが工夫されている点は高く評価されると感じました。</p> <p>その担い手である職員へは、年数や経験だけによらず職員からの提案は積極的に受け入れ、提案を形にすることでやる気に繋げるなど、就業を通じて職員を育てていく環境が整備されていました。また、外部研修に参加して研鑽を図る機会や、有給休暇を取得してリフレッシュする機会を公平に割り振るなど、全体で 5 名という小集団組織が良好に機能できるよう配慮されていました。こうした取り組みが職員間の良質なチームワークを生み、質の高い利用者支援に繋がっていると感じました。</p> <p>上述した取り組みの一方、計画の策定に対しては課題を感じました。開設からの 4 年間は、組織を充実されることに力が注がれ、中長期的な課題を認識しつつも具体的な計画策定に至らなかったとのことでした。事業所を運営していく上では、その組織が目標とする中長期的なビジョンが必要とされます。3～5 年後のあるべき姿を中長期計画として示し、その具体的な取り組み方法として、単年度の事業計画を策定して実行していく、その実行過程で定期的に評価を行い、課題や問題点を検証して必要な見直しをしていくことが求められます。今回のヒアリングでは、中高生の日常的な利用や地域との連携の強化が課題であるとお聞きしました。認識されている課題の解決を目標として、中長期的なビジョンを作成されることが望まれます。その目標達成のために、単年度ごとの具体的な目標を定め、その実行過程を定期的に評価し、課題や問題点の検証を繰り返しながら事業運営をされてみてはいかがでしょうか。</p> <p>今後も、館長が話された「子どもの育成が児童館の使命である」ことを目標とし、さらに発展していかれることを期待いたします。</p>
-----	--

<p>特に良かった点(※)</p>	<p>I-1 理念・基本方針 理念・基本方針が明文化され、毎週のミーティングや毎月の会議において、職員間で確認されていました。また、理念・基本方針は、子どもたちにもわかりやすい表現（「めあて」と「やくそく」）となっており、毎日行われる終わりの会で、館長から理念に照らした話がされていました。</p> <p>III-1-(3) 利用者の意見等が述べやすい体制が確保されている 送迎の時や連絡帳を通じて、保護者から日常的に意見を聞くとともに、子どもたちが要望等を言いやすいように図られていました。苦情解決に関するマニュアルを整備し、意見等に対応した結果は、プライバシーに配慮したうえで公表されていました。</p> <p>A-3 小学生への対応（核となる児童館活動） 行事やクラブ活動では、児童の自主性・主体性が育つように多様な取り組みが企画されていました。達成感の味わえるもの（けん玉、百人一首など）、創意工夫できるもの（クラフト、クッキングなど）、連帯感の持てるもの（みんな遊び、誕生会など）等、児童の興味や好奇心を引きだすことを大切にするとともに、職員の特技や特性が生かされていました。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p>II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている 地域の社会福協議会や民生児童委員会と連携して、定期的に子育てサロンを実施していました。しかし、児童館を利用する子供たちの保護者同士の交流会の企画や、専門的な講習会や研修会は実施されていませんでした。子育てに関する講習会や、保護者を対象とした交流会などの開催が望まれます。</p> <p>III-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。 日常的な活動記録は日誌に記載されていました。また、年度活動計画にもとづく記録がされていました。その一方で、個別に援助を必要とする子どもなど、個別の記録は確認できませんでした。また、記録の廃棄等を定めた規程は整備されていませんでした。 個別対応が必要なケースの個別記録と記録の取り扱いに関する規程の整備が望まれます。</p> <p>A-4 中高生への対応 小学校内という立地や新設児童館という条件から、現状では日常的な中高生の利用がありませんでした。その中で「中高生の広場」「中高生と赤ちゃんのふれあい事業」等を企画し、利用のきっかけ作りを模索されていました。ただ、中高生対象の事業を企画実施していますが、中高生が企画から参加できるような活動とはなっていませんでした。 卒業生が中学生になる来年度からは、さらに中高生の活動を広げる計画がされていました。その実現を期待します。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【共通評価基準】 児童館版

評価結果対比シート

受診施設名	京都市向島南児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2014年2月22日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-1 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	a	a
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	a
	I-1-2 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	a
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	a
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	c	c
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	c	c
	I-2-2 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	a	a
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	b	a
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	a
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	b	b
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	b	a
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	b	a

【自由記述欄】

I-1-1(2)	理念、基本方針が明文化されており、毎週のミーティングや毎月の会議において職員間で確認されていた。子どもたちにもわかりやすい表現となっており、毎日行われる終わりの会で館長から理念に照らした話がされていた。
I-2-1	中長期計画は策定されていない。
I-2-2	年度ごとの事業計画が策定されていた。職員からの主体的な発想を計画に反映させるため、ミーティングや職員会議を通じて意見を吸い上げていた。
I-3-1	管理者の役割と責任を明文化し、会議等を通じて職員に周知していた。遵守すべき法令等について、施設長研修等で得た情報を職員に伝えているが、法令のリスト化などは確認できなかった。
I-3-2	平成27年度から法改正により経営状況が変化することを見据えて、定例の会議等で職員間で現在の課題について議論されていた。開館から4年の取り組みを評価し、次の5年に向けて具体的な課題を提起し、その取り組みを実践していた。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	a
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	a
		③ 外部監査が実施されている。	a	a
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	a
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	b	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b	b
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	a
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	a
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	a	a
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a	a
	II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	b	b
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		b	b	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	a
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	a
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者地域とのかかわりを大切にしている。	b	b
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	b	b
		③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	b	b
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	b	b
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	b	b
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		b	a	

【自由記述欄】

II-1-(1)	児童館連盟が構成する第6ブロックの館長会に参加し、必要な情報を収集していた。毎月開催される会議において、経営状況を含む具体的な業務に関して、課題の抽出とその改善に向けた話し合いがされていた。外部監査が実施されていた。
II-2-(1)	法人において、必要な人材に関する方針が示されていた。人事考課制度に関しては、目的等に関して正しく理解はされていたが、具体的な方針等は確認できなかった。
II-2-(2)	職員の就業状況は、超過勤務の状況や有給休暇取得状況等を把握し、不公平なく勤務できるよう配慮されていた。把握した状況の分析は行っていたが、具体的な改善策は確認できなかった。
II-2-(3)	児童館学童連盟の研修を中心として、個人ごとに研修が体系化され計画的に実施されていた。研修の習得状況を評価し、必要な見直しがされていた。
II-2-(4)	実習受入に関して、意義や方針について会議で職員への説明がされていた。実習に際しては、学校と連携のもと計画的に学べるよう図られていた。実習指導者に関する研修や個々の実習生に関する実習計画は確認できなかった。
II-3-(1)	防災安全緊急対応マニュアルを作成して、子どもの安全確保に取り組んでいた。事故防止のためのチェックリスト等が作成されていた。定期的に避難訓練が実施されていた。
II-4-(1)	地域の社会福祉協議会や民生児童委員会と連携して、定期的に子育てサロンを実施していた。児童館を利用する子供たちの保護者同士の交流会の企画や、専門的な講習会、研修会等は実施されていなかった。
II-4-(2)	地元小学校、総合支援学校、第2児童相談所など、関係機関と連携して虐待の防止等に取り組んでいた。地域の自治会など、関係機関・団体のリスト化等はされていなかった。
II-4-(3)	子育てサロンを通じて民生児童委員、社会福祉協議会と連携し、地域ニーズの把握に努めていた。また、子どもたちが安心・安全に過ごせる場所として一定の役割は担っていた。地域住民の相談事業を通じたニーズ把握はされていなかった。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	a	a	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	b	b	
	Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	b	a	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	b	a	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	b	a	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	b	a	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	b	a
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	b	a
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			a	a	
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	b	b	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	b	b	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b	b	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	a	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	a	a
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		a	a	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	a	a	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	a	

【自由記述欄】

Ⅲ-1-(1)	年度初めの会議で基本姿勢や行動規範、保護者や地域の人たちへの接し方などについて話し合い、利用者を尊重したサービスを共通理解のもと提供できるよう取り組んでいた。プライバシーに保護に関するマニュアルは確認できなかった。
Ⅲ-1-(2)	利用者満足度に関するアンケートを実施し、その結果を広報誌で公表していた。年2回開催される児童館に関する説明会を利用して、相談会を実施していた。
Ⅲ-1-(3)	送迎の時や連絡帳を通じて、保護者から日常的に意見を聞くとともに、子どもたちが要望等を言いやすいよう図っていた。苦情解決に関するマニュアルを整備し、意見等に対応した結果はプライバシーに配慮したうえで公表されていた。
Ⅲ-2-(1)	提供したサービス内容については、職員会議やミーティングでPDCAの観点から評価し、課題を抽出していた。その課題は、改善計画として解消に向けた取り組みがされていた。また、利用者満足度調査結果を分析し、必要な改善が実施されていた。
Ⅲ-2-(2)	活動の実施方法は、年度末の会議で職員の意見や満足度調査の結果をもとに見直しが行われていた。個々のサービスについて、標準化された手順書等は確認できなかった。
Ⅲ-2-(3)	日常的な活動記録は、日誌に記載されていた。また、年度活動計画にもとづく記録がされていた。個別に援助を必要とする子どもなど、個別の記録は確認できなかった。記録の廃棄等を定めた規程は整備されていなかった。
Ⅲ-3-(1)	「学童クラブのしおり」を作成するとともに、DVDを作成して、利用希望者に情報を提供していた。また、福祉事務所など関係機関にしおりや広報紙をおいて情報を提供していた。
Ⅲ-4-(2)	活動計画の策定に際しては、職員会議等を通じて職員の意見を聞き、また利用者からの意見を反映させていた。当月の取組みについて評価見直しを実施して、翌月の予定に反映するなど、PDCAサイクルにより評価見直しが実施されていた。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【付加基準】 評価結果対比シート

児童館

受診施設名	京都市向島南児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2014年2月22日

【付加基準】児童館版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	① 遊ぶ際を守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	a	a
		② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	b	b
		③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	a	a
		④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	a	a
		⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	b	b

【自由記述欄】

A-1	<p>①児童の生活のめあてとして、「なかよく たのしく げんきに」、「あいさつ あんぜん あとかたづけ」というわかりやすい約束を定め、掲示するとともに「終わりの会」で指導して定着に努めていた。</p> <p>②小学校内にあるという立地、開設4年目という条件から、現在は日常的な中高生の利用がない状況であった。</p> <p>③木製遊具、クラフト教室、農園活動等を取り入れ、自発的かつ創造的な活動に向けて環境整備に努めていた。また、遊び道具や図書の配置や場所に留意して、利用しやすいよう整理整頓されていた。</p> <p>④育成室、図書室、遊戯室の使い方を工夫して多様な過ごし方が出来るよう工夫していた。「かくれがスペース」を設置して自由に遊び落ち着ける場所を確保していた。</p> <p>⑤夏休みには小学生と乳幼児親子の交流があり、行事では異年齢の参加がある。しかし、地域の幅広い年齢層が参加できる活動の定期的な実施はできていない。</p>
-----	--

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	a	a
		② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	a	a
		③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	b	b

【自由記述欄】

A-2	<p>①週3回、乳幼児クラブを開催し、乳幼児親子の利用が日常的になるよう活動していた。</p> <p>②週3回の乳幼児クラブで保護者の声を聞くとともに、年度末にはアンケートを実施してニーズを把握していた。また、「命のふれあい講座」、「社協子育てサロン」、「ランチカフェ」等、育児支援の体制を整備していた。</p> <p>③保護者と職員が協働で行う「人形劇サークル」等の活動が実施されていたが、定期的に交流する場は設置されていなかった。</p>
-----	---

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応(核となる児童館活動)	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	a	a
		② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	b	a
		③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	b	a
		④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	a	a

【自由記述欄】

A-3	<p>①個々の児童についての情報は常に職員全員で共有し、児童の心理を考慮した援助に努めていた。</p> <p>②活動のなかで個別・集団援助に配慮して、課題のある児童については事例検討をしていた。</p> <p>③障害の有無や国籍の違いを児童が理解できるように、子どもの言動やサインに注意をはらい対応していた。</p> <p>④行事やクラブ活動では、児童の興味や好奇心を引きだすと同時に、職員の特技や特性を活かした多様な活動を企画し、児童の自主性・主体性が育つように工夫していた。</p>
-----	---

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中高生への対応	① 日常的に中高生の利用がある	c	b
		② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	c	b
	A-5 利用者からの相談への対応	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている	a	a
		② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	b	a
	A-6 障害児への対応	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	b	a
	【自由記述欄】			
A-4	①小学校内という立地等から現状では日常的な中高生の利用がない。「中高生と赤ちゃんのふれあい事業」等を企画するなど、交流の機会を模索していた。 ②中高生対象の事業を企画実施しているが、中高生が企画から参加できるような活動が実施できていない。			
A-5	①日常は送迎時の面談、電話での連絡、家庭訪問で利用者と連絡を図っていた。また、学区社会福祉協議会の「子育てサロン」や、助産婦を講師とした講座等を開催し相談機能を高めていた。 ②現在、虐待や不登校に関する事例はほとんどないが、学校や要保護児童対策ネットワーク等の関連機関と連携していた。			
A-6	①障害のある児童については、保護者や関係機関と連携して情報共有を図り、介助ボランティアの配置を含め見守り体制を強化する計画をしていた。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	b	b
		② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	b	b
	A-8 広報活動	① 広報活動が適切に行われている	a	a
		② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている	a	a
【自由記述欄】				
A-7	①地域の社会福祉協議会、民生児童委員を中心に「地域子育てサロン」が当児童館で実施され職員も協力しているが、児童館運営委員会等の組織化はできていない。 ②帰宅時の安全確保については、職員が同行し確認するなどしているが、地域諸団体との連携した活動には至っていない。			
A-8	①学童クラブ、乳幼児クラブ、地域住民、各々を対象とした3種類の広報誌を毎月発行していた。 ②利用対象者別の広報誌は、必要とされるニーズに沿った情報提供を意識するとともに、写真を多く掲載した視覚的な構成にして関係機関に配架していた。			